

～航空局からのお知らせ～

[2025年1月31日]

★冬の運航の注意事項（再周知）

今年度開催しました安全運航セミナーにおいてアンケートを行ったところ、過去配信したメールマガジンを再周知してほしいという意見がありました。まだまだ寒い時期が続いており、普段降雪の少ない関東地域や西日本地域においても、降雪が発生する可能性がありますので、第26回（令和元年12月2日発行）と第40回（令和2年12月14日発行）で配信した冬期における運航の注意事項をお届けします。

・着陸時のタイヤバースト

航空従事者試験官の過去の経験において、セスナ（172P）に乗り込み、上空で航空写真の撮影後、滑走路に着陸した際にタイヤがバーストした事案が発生しました。バーストの原因は、オイルホースの中に滞留した水が膨張し、ブレーキペダルを踏んでいないのに氷点下の上空でブレーキがかかった状態になったことでした。

なぜ、オイルに水が含まれ、溜まっていたのか？当該機は、小刻みにオイルを補充しており、継ぎ足しの際に水分が混入してしまい、さらに、セスナ172型のオイルホースはディスクブレーキの手前でU字型に下がっており、オイルより重い水が滞留してしまったのです。

このようなケースは稀かもしれませんが、オイル交換や点検を依頼してみてもいいでしょうか。

・CO（一酸化炭素）中毒

オーストラリア航空局からの情報となりますが、事故調査で乗員の血液を調べた結果、CO濃度が高かった事例がいくつか見つかったとのこと。運航者はどのようなことに気をつければよいでしょうか。

1つ目の注意点は、運航中暖房を入れた状態で変な匂いはしないか。CO自体には匂いはありませんが、排気ガスには匂いがあります。変だなと思ったら放置せずに暖房を止めて、飛行を中断して整備士に相談しましょう。

2つ目の注意点は、地上での運航では風向きに注意する。追い風や横風を受けての長時間のタクシーやエンジンランナップは、自機の排気を取り込むおそれがあります。ランナップでは少しでも風上に向けるように気を付けましょう。また、タクシー

においてはどうしても追い風や横風の状況になるため、一時的に外気導入を減少させるなど、注意が必要です。このような状態での CO 取り込みは、冬期だけでなく、どのような季節でも起こります。

3つ目の注意点は、他機の排気を避ける。  
当然他機の排気も危険です。風向きに注意して、間隔を取るなどして他機の排気をなるべく取り込まないように注意しましょう。

(参考情報) オーストラリア航空局の安全情報では、CO 検出器の携帯を推奨しております。

●メールマガジンバックナンバー

[https://www.mlit.go.jp/koku/koku\\_tk10\\_000012.html#backnumber](https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000012.html#backnumber)

※メールアドレス変更や配信停止の場合は、お手数ですが本メールに返信する形でご連絡をお願いいたします。

-----  
国土交通省 航空局 安全部安全政策課

MAIL : hqt-kogataki@mlit.go.jp

TEL : 03-5253-8111

小型航空機安全対策係 (内線 50135)

特定操縦技能審査担当 (内線 50136)

～X(旧 Twitter)もやっています～[https://twitter.com/mlit\\_kogataki](https://twitter.com/mlit_kogataki)

-----